

今年の干支は牛さんです。牛の話をしてみましょう。

昭和三十年代まで京都市内にもたくさん牛がいました。農耕馬と共に、牛はトラクターのかわりをしていたからです。耕す時はすきをつけて、ならす時はまぐわをつけて、お百姓さんといっしょに朝から日の暮れ（夕方）まではたらきました。お百姓さんは、夕暮れになると、自分の牛を近くの川に連れて行き、わらのブラシできれいに洗ってあげました。そして、家の玄関と一緒にくぐったのです。たくさん牛をミルク用やお肉用に飼っている牛飼いさんは自分の家のほかに牛小屋をもっていますが、お百姓さんは基本的には一頭の牛を大切にしていました。牛小屋よりも、目のいきとどく、母屋の入り口近くに、牛の部屋を設けて、一つ屋根の下で牛と暮らしたのです。

牛のえさはあたりの草です。昔はあちこちに牛のえさになる草がありました。冬用の干し草も刈り取って屋根裏や納屋に保管してありました。

牛のふんはすばらしい肥料になりました。牛小屋を掃除する時に外に出して、また畑や田んぼに返します。

江戸時代は肉食は仏教の教えに反するということでおこなわれませんでした。（ただ、薬食いと称して、こつそり肉食がおこなわれることもありましたが。彦根藩では近江牛のみそ漬けを徳川の殿様に献上していたといわれています。）

牛の骨をぐつぐつにでとったゼラチン質の「にかわ」というものは日本画の絵の具を使うときや、なにかをくっつけるときや丈夫にするときに使われました。

いろいろな面で日本人は牛のおかげをこうむってきたわけです。

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② 昔は牛は今の機械でいうと何の代わりをしていたのですか？

③ 耕したいときに牛につけるものは何ですか？

④ 夕方、お百姓さんは牛をどこに連れて行ったのですか？

⑤ ④はなんのためですか？

⑥ なぜ昔の農家は家の中で牛を飼っていたのですか？

⑦ 牛のふんはなににつかわれましたか？

⑧ 江戸時代はなぜ焼肉屋さんがなかったのですか？

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 江戸幕府の將軍は肉食は一切しなかった。

（ ） 牛の骨も役に立った。

（ ） 牛は夕方になるとお百姓さんを川で洗った。

⑩ 上の文の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

